

研修報告書 No.6

所 属： 国立国際医療研究センター病院

氏 名： 竹内 俊吾

研修先： 嶺北中央病院

地域医療研修として令和3年6月21日から7月16日までの4週間、本山町立国保嶺北中央病院で研修させていただく機会をいただきました。高知県は東西に190kmと横に長い地形であり、その多くが山岳地帯となっています。人口の多くは高知市を中心とした中央保健医療圏に属しており、県内の高次医療機関のほとんどが県庁所在地である高知市内に位置していました。県内ではドクターヘリの運用も積極的に行なっているとのことでした。

嶺北中央病院のある本山町は嶺北地域に位置し、大豊町と土佐町に挟まれた人口3600人程の地域です。町の中央を吉野川が流れ、農業や畜産だけでなく自然に恵まれた環境でした。病院の窓からは吉野川とそれにかかる沈下橋を見ることができました。病院周辺の交通事情としては最寄り駅まで10kmほど離れており、病院へのアクセスには自家用車、路線バス、民間タクシーと限られており、車社会であることを感じました。

今回私にとって初めての高知県訪問であり、研修当初は高知県独特の方言に苦戦しました。「あがる」、「ノーが悪い」など標準語にはない表現が多々あり、いただいた資料を用いて勉強しました。研修も中盤を過ぎる頃には患者さんと話しているうちに徐々にイントネーションが理解できてきました。

研修では一般内科外来、救急車対応、病棟管理のほか訪問診療に同行させていただきました。嶺北中央病院では内科・外科のほか、非常勤として婦人科・皮膚科・脳外科・泌尿器科の先生方が高知市内から来て専門外来を行うという体制でした。その他にも週一回のNSTカンファレンス、褥瘡カンファレンス、リハビリカンファレンス等を通して医療チームの連携が強く医療の質の向上に積極的な環境でした。

内科外来では初診外来の他に、定期的を受診されている患者さんも診る機会がありました。元気な80歳以上の方が多く、地域の高齢化率の高さを感じました。後に調べたところによると高知県全体での高齢化率は31%(全国2位)ですが、嶺北中央病院の位置している嶺北地域では特に高く、高齢化率は48%となっているとのことでした。経験症例としては高血圧や糖尿病等の生活習慣病の他に、普段東京では診ることのないダニ咬傷などの地域特有の疾患を学ぶ機会を頂けたことを有り難く存じます。

嶺北地域では高齢化が進んでおり、自分で通院できない地域の患者さんに対して訪問診療や訪問看護等のサービスを通して積極的に支援を行う姿勢を感じました。足腰の悪い高齢の方に対する、こうした支援の重要性を学びました。訪問させていただいたご家庭の中には、90歳以上のご高齢の方が独居で生活されていたり、車道から離れた家まで坂を登る必要のある家など地域な

らではの需要もあるように思いました。こうした限られた医療アクセスの中で可能な必要十分な介入を継続して行っていくことが今後の地域の課題だと感じました。

その一方で高知県は全国有数で脳梗塞に対する血栓溶解療法の実施割合が高いことを脳外科の先生から伺いました。一般的な適応では脳梗塞発症から 4.5 時間以内の実施が必要であり、高次医療機関での治療が原則である本治療が積極的に実施されていることから、高知の医療連携の円滑さを感じました。ドクターヘリが有効活用され高知市内への短時間での搬送が実現されている影響も大きいのかと思います。

4 週間の研修を通して地域と医療の関わり、特に医療過疎地域における病院や医療者の役割を包括的に学ぶことができました。高知県の医療は高知市内の高次医療施設から地域中核病院、診療所、そして各家庭へと密接した連携のうえに構築されたネットワークに基づいて機能しているという実感を持ちました。新型コロナウイルス感染症の終息の目処も立たない中、遠方からの研修を受け入れてくださり、嶺北中央病院の佐野先生はじめご指導いただいた先生方、職員の方々、地域の方々、研修をコーディネートしていただいた高知医療再生機構の方々に、この場を借りて心から感謝申し上げます。